

福井県立大学附属図書館システム発注仕様書

1 概要

1.1 調達の目的

福井県立大学附属図書館では、開学 25 年を迎え、福井・小浜キャンパスを合わせた図書所蔵データが 40 万件、学術雑誌所蔵データが 10 万件に達している。これらの所蔵データを本学蔵書検索システム、国立情報学研究所の NACSIS-CAT システム、福井県立図書館の福井県内図書館総合目録（横断検索）システムにより、本学教員・学生、一般県民、全国の利用者に継続して提供し、蓄積していく必要がある。

現在稼働中のシステムにおいては、既に 4 年以上が経過していることから機器の老朽化が進んでいること、利用者の要望の多様化、学術情報の紙から電子への移行等から、学生ならびに教職員への学習、研究への高いレベルでの支援が困難になりつつある。

特に近年では拡大を続けるインターネット利用による電子ジャーナル、データベースと従来の冊子体資料とのシームレスな学術情報提供、ナビゲートサービス（リンクリゾルバ）が求められており、今後における状況の変化に対して柔軟に応じることができる拡張性を備えた最新のコンピュータシステム導入を図る。これによって、事務処理の効率化を促進すると同時に、より一層高いレベルのサービスを利用者へ提供することを目指すものである。

新図書館情報システムは、図書資料の蔵書管理から利用者サービスの速やかな提供と並んで、ホームページの充実、デジタル資料の提供促進、インターネット環境の充実、図書館コンテンツの適切な登録を主としたシステムに必要な機器および備品の調達を行う。

1.2 調達物品名

福井県立大学附属図書館システム 一式

1.3 機器設置場所および調達物品

（1）福井キャンパス 附属図書館棟 1 階 ネットワーク管理室 サーバ室

1) 業務データベースサーバ	1 台
2) 検索データベースサーバ	2 台
3) バックアップ用 NAS	1 台
4) ラックおよびコンソール機器	1 式
5) 管理用端末（デスクトップ PC）	2 台

（2）福井キャンパス 附属図書館棟 1 階 図書整理室

1) 業務用端末（デスクトップ PC）	7 台
2) 業務用端末（ノート PC）	1 台
3) 業務用小型モノクロレーザープリンタ	1 台
4) 業務用カラーレーザープリンタ	1 台
5) OCR スキャナ	3 台
6) 蔵書点検用 OCR スキャナ	4 台

（3）福井キャンパス 附属図書館棟 閲覧室 1 階

1) 業務用端末（デスクトップ PC）	2 台
2) 検索用端末（デスクトップ PC）	4 台
3) 業務用小型モノクロレーザープリンタ	1 台
4) OCR スキャナ	2 台
5) 入退出管理システム（電気錠）	1 式
6) 防犯ビデオカメラ設備	1 式

(4) 小浜キャンパス 2階 小浜分館

1) 業務用端末 (デスクトップ PC)	1 台
2) 業務用端末 (ノート PC)	1 台
3) 検索用端末 (デスクトップ PC)	1 台
4) 業務用小型モノクロレーザープリンタ	1 台
5) OCR スキャナ	1 台
6) 蔵書点検用 OCR スキャナ	1 台

(5) 各キャンパス 共通

1) 業務用端末 (デスクトップ PC) 予備機	1 台
2) ネットワーク機器	5 式

1.4 要求要件の概要

- (1) 本調達物品に係る性能・機能・技術等の要求要件は「2 調達物品の備えるべき性能・機能・技術等の要求要件」に示すとおりである。
- (2) 要求要件は全て必須の要求要件である。
- (3) 要求要件は本学が必要とする最低限の要求要件を示しており、提出を求める入札仕様書 (1.7) で要求要件の性能・機能・技術等が確認できない場合は、落札決定の対象から除外する。

1.5 発注仕様書に関する留意事項

- (1) 入札機器およびソフトウェア等は、入札時点で原則として製品化されていること。入札時点で製品化されていない機器およびソフトウェアにより応札する場合は、要求要件を満たすことの証明および納入期限までに製品化され、納入できることを保証する資料および確約書等を提出すること。
- (2) 提案システムのうち、納入期限までにバージョンアップが予想される場合は、その予定時期等が記載された資料を提出すること。
- (3) 性能、機能、技術等に関する要求要件について、それらを 1 台の装置で実現できない場合は、複数の装置で実現してもよい。また、複数の装置で実現するように指定している場合でも、特に断りがない限り、設置場所が同一ならば 1 台の装置で実現してもよい。ただし、その場合は、別の実現方法を選択した理由、性能・機能が本学発注仕様以上であることの説明・根拠を別途詳細に説明すること。
- (4) ソフトウェアのバージョン等について、本発注仕様書の指定より最新のものがあ場合は、そちらを優先すること。
- (5) 本発注仕様書に明記されていない事項についても、本システムを実現するために当然備えるべき性能・機能・構造等については完備し、本システムとして正常に機能しなければならない。
- (6) 本発注仕様書について、配布した資料の複写を禁ずる。入札後もしくは入札を断念した場合は速やかに本学に返却すること。
- (7) 本発注仕様書において知り得た情報・技術は入札終了後においても本学の合意なしに他に漏らしてはならない。
- (8) この発注仕様書について、電子ファイル (MS-Word 形式ファイル) による配布を希望する場合は、入札確認書の担当者に申し込み、指定された日時、場所で受け取ること。

1.6 導入に関する留意事項

1.6.1 設置場所

機器等の設置場所については、本学担当者の指示に従い、指定された場所に設置すること。

1.6.2 導入

- (1) 落札者は、本学担当者と導入日程を調整し、日程計画表を提出すること。
- (2) すべての物品は、平成 28 年 10 月 1 日（土）から運用を開始し、この日より賃貸契約を開始する。
- (3) 導入システムは、本稼動前に数週間程度のテスト運用試験期間を設けること。

1.7 入札確認書の作成

- (1) 入札に際しては、発注仕様書の要求要件をどのように満たすか、あるいはどのように実現するかを具体的かつ分かりやすく記載した「入札確認書」を作成すること。
- (2) 特に以下の項目については、具体的に記載すること。
 - ・開発手順、スケジュール
 - ・開発・運用支援・保守・セキュリティの体制について
- (3) 入札確認書は、下記に電子ファイル（PDF 形式ファイルまたは MS-Word 形式ファイル）とこれを印刷したものを提出すること（郵送の場合は、下記日時までに必着のこと）。
- (4) 入札確認書の内容について、問い合わせることがあるので連絡先・担当者を明記すること。
- (5) 入札確認書の提出期限・提出先
 - 提出期限 平成 28 年 6 月 7 日（火）17 時まで
 - 提出先 910-1195
福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島 4-1-1
公立大学法人 福井県立大学
担当 教育推進課（附属図書館）
井藤 久美（いとう くみ）
TEL 0776-61-6000（内線 1203）
FAX 0776-61-6013
- (6) 今回の発注仕様の技術要件に関する問い合わせは「(5)」の提出先と同じとする。
問い合わせ方法は電子メールのみ（j-k-itou@fpu.ac.jp）とし、メール発信後、電話でメール着信を上記担当に確認すること（不在の場合は、上記 附属図書館職員に告げること）。回答は最大 48 時間以内で行うこととし、受付時間は平日 8:30-17:15、受付期限は入札確認書の提出時間までとする、ただし回答の時間の関係で直前の問い合わせには十分な回答ができない場合があるので注意すること。

1.8 その他の留意点

- (1) 賃借については、ハードウェアおよびソフトウェアの保守費用を含む 5 年リースとする。
- (2) 本調達には、調達機器の搬入、据付け、配管、配線、調整、既存設備との接続、契約満了時の撤去を含む。
- (3) 本調達には、本学の財務システムとのデータ連携を作業に含む。
- (4) 本調達には、福井県内図書館総合目録（横断検索）システムとのデータ連携を作業に含む。
- (5) 契約に際しては別添の契約書（案）の趣旨のとおり契約できること。
- (6) 入札金額は、上記に基づいた契約の平成 28 年 10 月 1 日から平成 33 年 9 月 30 日までの賃借料、保守料の合計を 60 で除した額の 108 分の 100 に相当する額とする。

2 調達物品の備えるべき性能・機能・技術等の要求要件

2.1 基本要件

図書館情報システムは、大学図書館で行う図書館資料の受入業務、目録データの作成、

閲覧業務、蔵書検索サービスなどの業務を対象とする。

新システムは、将来性、発展性、柔軟性、拡張性に富むものとし、本学の図書館構成を考慮したシステムであることが必要である。なお、現行図書館システムの詳細は、前回図書館システム導入時の発注仕様書を参照すること。

- 1) 図書館業務のトータルな電算化を行い、利用者サービスの向上を図ること。
- 2) 図書館のホームページ（ポータルサイト）を作成する機能を有すること。
- 3) 本システムはパッケージソフトを採用し、他機関で下記の納入実績があり、現在においても稼働しているものとする。
- 4) 学内 LAN 及び学外の SINET 等のインターネットに接続できること。また、図書館から各種サービスや情報の提供及び発信が学内外に行えること。
- 5) NACSIS-CAT、NACSIS-ILL 等、国立情報学研究所（NII）の全てのサービスが学内 LAN を通じて利用できること。CATP に対応できること。
- 6) 学内の各図書館にて、並行して各種業務が可能であること。
- 7) 現行システムのデータ継承ができ、その全てのデータを利用して業務ができること。
- 8) 提供されるソフトウェアの本学への適用については、十分なサポートを行うこと。
- 9) ハードウェアおよびソフトウェアの運用、保守、障害時の迅速な修復などについて、受注者の支援体制が迅速かつ協力的であること。
- 10) サーバのオペレーティングシステム（OS）として Linux を採用していること。
- 11) 信頼性のあるリレーショナルデータベース管理システム（RDBMS）で、日本語文字列検索機能（全文書検索機能）を有すること。また使用ユーザー数に制限がないこと。
- 12) サーバと別筐体のバックアップ装置として NAS（Network Attached Storage）を準備し、システムのバックアップを安定取得できる環境を構築すること。
- 13) 現有のデータ量を全て収容し、更新後 5 年間の増加データ量に十分対応でき、日常業務で発生するデータを保存できる記憶容量を持つこと。
- 14) 図書館業務、利用者サービスについて、ネットワークを十分に活用できること。
- 15) システムとして、日本語処理に優れ、操作性がよく、管理運用が容易であること。
- 16) 本システムと、それに使用するデータベースは同一メーカー製で、保守および運用支援などのサポートが円滑に行われること。

2.2 ハードウェア

- 1) 高速確実なバックアップ機能を備え、障害時には短時間で復旧できること。
- 2) サーバマシンには無停電電源装置（給電 5 分以上）を備えること。
- 3) プリンターの印字速度は、業務を遂行するために十分なものであること。
- 4) 導入後最低 5 年間のデータの処理と蓄積に対応できる機器であること。

2.3 ソフトウェア

- 1) 大学図書館において十分な使用実績があり、かつ使用する機器や機能に最適なものであること。
- 2) ソフトウェアの導入とチューニング及びそれらの修正や保守は受注者が提供すること。また、その作業に当たっては、本学の日常業務に大きな支障を与えないこと。
- 3) 国立情報学研究所（NII）に SINET 経由で接続し、同センターの提供する各種サービス（NACSIS-CAT/ILL 等）が利用できること。
- 4) 学内 LAN 及び学術情報ネットワークなどの通信プロトコルは TCP/IP とする。
- 5) 蔵書検索など、利用者への情報サービスは各種クライアント環境から多様なユーザーインターフェース（インターネット、携帯電話、スマートフォンなど）で利用できること。
- 6) 蔵書検索機能として N-gram 方式の転置索引機能を持つ DBMS を有し、検索キーワード

ードの管理が不要であること。

- 7) 入出力文字種については、業務を遂行するために十分なものであること。
- 8) 現行システムのデータの継承ができること。
- 9) 画面上に複数業務のウィンドウを同時に表示し、並行処理ができること。
- 10) データベース更新を伴う処理を実行する場合は、画面に通知を行うこと。また更新キャンセルが選択できること。
- 11) 利用者カスタマイズツールが豊富であること。
- 12) 主要な画面において、3段階以上のフォントサイズ変更が可能なこと。

2.4 保守

- 1) ハードウェア及びソフトウェアに起因する障害の復旧作業は受注者が行い、本業務への影響が最小となるよう迅速に対応することとし、その為に必要な機器や維持のための費用等は受注者の負担とすること。
- 2) リモート保守を実施すること。セキュリティを配慮し、ネットワーク越しのPCのサポートには、双方向の画面共有によるリモートサポートサービスを利用すること。
- 3) 障害が発生した場合は、できるだけ速やかに復旧にあたること。
- 4) 定期保守等の作業後は、その内容を報告すること。

2.5 システムのレベルアップについて

- 1) 図書館の本システムにレベルアップ（バージョンアップ、リビジョンアップ）があった場合には、速やかに連絡し、本学と協議したうえで、必要な場合はレベルアップ（バージョンアップ、リビジョンアップ）を行うこと。また、その際の費用は保守費用に含まれること。
- 2) 学術情報システムおよびネットワークでの変更があった場合にも、ローカル側のシステムを含めた適切な対応をとり、変更のソフトを提供すること。

2.6 研修・支援体制について

- 1) ハードウェアおよびソフトウェアについてのシステム全体の設定・構成等日本語による基本マニュアルを冊子またはオンライン形式で1部以上提供すること。
- 2) 業務端末等の日本語操作マニュアルを冊子またはオンライン形式で1部以上提供すること。
- 3) システム導入の際、システム運用、端末操作等の教育、講習会を行うこと。
- 4) システムの改訂がある場合、その連絡、操作方法の教育を速やかに行うこと。また、マニュアルの改訂も速やかに提出すること。
- 5) システムの運用について、協力的な姿勢と体制をとること。
- 6) システムの利用や拡張の際に当学が行う各種質問等には、速やかに対応すること。
- 7) 図書館システム専任のサポート要員が複数名常駐するサポート拠点を備えること。

2.7 その他について

- 1) 通信設備は既存のネットワークを使用すること。
- 2) 福井キャンパスサーバ室の電源／LAN工事を実施すること。
- 3) 福井キャンパス事務室のLAN工事を実施すること。
- 4) 小浜キャンパスのLAN工事も実施すること。
- 5) 上記のLAN工事に必要なネットワーク機器も設置すること。
- 6) 搬入、据え付け、及び調整に要する諸経費は受注者側の負担とする。
- 7) システム機器類の設置、テスト等の導入に必要な作業を行う際、当学の業務に支障を来さないよう配慮すること。
- 8) 本システムの設置場所及び方法の詳細については、本契約締結後、当学と協議のうえ行うこと。

- 9) 特に本学側で用意すべき工事等があれば、速やかに通知すること。
- 10) 借入物品の期間満了に伴う撤去に必要な諸経費は受注者側の負担とする。

3. 業務処理別要件

3.1 基本要件

- 1) 図書館用パッケージソフトウェアを本学の運用に合わせて設定のうえ提供すること。
- 2) 各図書館において並行して処理が行えること。また、複数の図書館で同時に同じ処理を行っても結果に支障を来さないこと。
- 3) 中国語や韓国語などの多言語文字を表示および入出力する機能を有すること。
- 4) マルチウィンドウ及びマルチタスク処理機能を有すること。
- 5) GUI 画面上の操作により、プログラムの修正なしにユーザーが画面や出力帳票のレイアウトを変更できること。
- 6) 全ての帳票は、本学で現在使用している形式をそのままに、新システムに使用できること。
- 7) 一覧表示画面において表示項目の選択および項目を指定したソートができること。また、一覧表示されたデータの Excel へのコピーおよび CSV ファイル出力ができること。また、これらの操作はいずれも GUI 画面上の操作により行えること。
- 8) Excel/CSV ファイルへの出力項目をローカル PC に保存し、次回から利用できること。
- 9) 利用権限の設定により、作業者が利用可能な画面を制限できること。また、メニュー画面には利用権限のある業務のみを表示できること。
- 10) 画面上に操作結果と次にすべき操作内容の表示が可能なこと。
- 11) 帳票印刷の方式として、直接印刷・プレビュー印刷・自動印刷のいずれも可能なこと。また、帳票は pdf 形式にて出力可能なこと。

3.2 図書管理

(1) 選書（購入依頼）・発注・受入データ

選書・発注・受入業務では、選書および発注、受入の管理ができること。

1) 選書・発注・受入データ項目

受入図書 1 件毎に少なくとも以下の情報を持てること。

- ・ 書誌情報：書名、著者名、vol、版表示、出版者、出版年、ISBN
- ・ 受入区分：購入、寄贈、管理換、交換、弁償
- ・ 購入依頼者、寄贈者
- ・ 資料種別：備品・消耗品、和書、洋書、和視聴覚、洋視聴覚
- ・ 発注先情報：発注先業者をコード管理できること
- ・ 発注状態：受入済、発注取消、品切れ等の情報が管理できること
- ・ 日付情報：図書請求日、発注日、受入日、支払日、除籍日の情報が管理できること
- ・ 価格情報：定価、購入価格、通貨の種類、円換算レート、外国価格の円換算価格
- ・ 購入冊数：購入部数、セットものの冊数の情報が管理できること
- ・ 継続発注情報：セットもの、シリーズものの情報が管理できること
- ・ 所在情報：所在コードにより管理できること
- ・ 発注番号：発注レコード 1 件毎に固有の番号を付与できること
- ・ 受入番号：受入したまとまりで固有の番号を付与できること
- ・ 業務用メモ

(2) 選書

- 1) NACSIS-CAT および Amazon からデータを取り込み選書に利用できること。
- 2) 選書で作成した情報を発注・受入で流用できること。
- 3) 発注以降の各段階のデータとの重複チェックができること。

- 4) 選定済みデータでの一括発注処理ができること。
 - 5) Web の画面で利用者からの購入依頼を受け付けること。その際、特定利用者からの発注依頼については、本学ネットワークで既に採用されている認証システムを使用し、受け付けること。
- (3) 発注
- 1) NACSIS-CAT および Amazon からデータを取り込み発注に利用できること。
 - 2) 発注中データおよび所蔵データに対する重複チェックができること。
 - 3) オリジナル発注の場合、自動的に書誌登録画面に遷移しオリジナル書誌のデータ作成が行なえること。
 - 4) 継続物の発注処理が行なえること。また、継続物のデータ管理が複数年度にわたって行えること。
 - 5) 発注状態をオンライン画面から変更できること。
 - 6) 購入希望者を利用者データベースに登録済の利用者番号で指定できること。
 - 7) 自動的に割引率、税率、レート処理ができること。また、発注単位毎にも設定が行なえること。
 - 8) 発注番号を自動付与して、発注データの管理ができること。発注番号の手入力も可能なこと。
 - 9) 絶版など、納入不可のデータ管理ができること。
 - 10) 書店システムなどに仮発注・発注したデータを未発注・発注済みデータとして一括取り込みができること。
 - 11) 発注ごとに未着チェックの猶予日数を登録できること。
 - 12) 発注ごとに、受入後に利用者に行う通知処理を指定できること。通知はメールによる通知と予約を選択できること。
 - 13) 受入後に所蔵に反映する各種の値（利用者名・ID、予算区分、予算単位、資料種別、所在、受入区分、貸出区分、備消区分、請求記号）を発注時に設定できること。
 - 14) 複本の発注時に、ローカルの既存の書誌を流用できること。書誌は書誌 ID、ISBN、書名で検索できること。
 - 15) 既存の発注データの値を流用した発注処理ができること。
 - 16) 発注データをもとに本学が使用する「発注伝票」が出力できること。
- (4) 受入
- 1) 発注データを取り込み、受入データを作成することができること。
 - 2) NACSIS-CAT からデータを取り込み受入に利用できること。
 - 3) 継続物の受入処理が行なえること。セット物の受入処理が行えること。
 - 4) 寄贈図書の受入処理が行えること。
 - 5) 受入段階で画面からの資料番号の登録が可能なこと。
 - 6) 受入番号を自動付与して、受入データの管理ができること。受入番号の手入力も可能なこと。
 - 7) 継続物やセット物の受入時に、同じ発注ですでに受け入れた所蔵情報を見られること。
 - 8) 発注冊数を超えて受け入れることが可能なこと。
 - 9) 業者から納入されたデータより一括して受入データを作成できること。
 - 10) 受入した図書について、資料 ID を指定し、一括で受入日、寄贈者名、受入区分、所在情報を変更できること。
 - 11) 利用者 ID と予算区分の組み合わせごとに予算額を設定し、受入時に超過チェックが可能なこと。
 - 12) 寄贈図書について、本学の「受入決議書」が出力できること。
 - 13) 受入後、本学財務会計システムに入力するための必要なデータを、テキストファイル形式等によって抽出、集計、出力できること。必要なデータについては、別途協議の上、決定する。なお、会計規則とその運用ルールの変更に伴う図書館業務処理手順の変更等が生じた場合、対応し得るシステムであり、必要に応じ受注者の責任において、

システムの変更作業を行うこと。

(5) 支払

- 1) 支払および解除が受入データ 1 件毎に設定できること。
- 2) 支払状態をオンライン画面から変更できること。
- 3) 未払データのうちで、特定データのみを支払対象として支払処理ができること。
- 4) 発注を経由しない受入データに支払処理を行えること。

(6) 整理

- 1) 発注受入情報から所蔵情報を一括処理で自動的に作成できること。
- 2) NACSIS-CAT からデータを取り込み整理に利用できること。
- 3) 整理終了後に利用開始処理を行うことで、利用者に通知を行えること。通知はメールによる通知と予約を行えること。

(7) その他

- 1) 指定した条件で任意のデータ抽出し、テキストデータに変換して出力できること。
各種帳票、統計リストのプリンター出力が行えること。
- 2) 資料 ID 順の図書台帳を出力すること。項目順（縦）は以下のとおり。また、任意に所在等の項目を追加・削除できること。

・受入日	・予算単位（個人研究費購入図書台帳に項目追加する）
・資料 ID	・受入先または受入先名
・著者名	・受入価格
・書名	・請求記号
・出版者	・所在
・刊年	・除籍日
・受入区分	
・予算区分	
- 3) 図書台帳と同様の体裁で寄贈台帳を出力すること。項目順（縦）は以下のとおり。

・受入日	・資料 ID
・著者名	・寄贈者名
・書名	・評価額
・出版者	・請求記号
・刊年	・所在
・受入区分	・除籍日
- 4) 図書台帳と同様の体裁で製本雑誌台帳を出力すること。その際、製本の背文字に記述した巻号の記述を表示すること。
- 5) 任意の検索条件で得られた結果一覧に対し、1 件ごとおよび一括でデータ修正ができること。
- 6) 発注時に指定した猶予日数から、未着リストを出力できること。リストは単行物 と 継続物を選択して出力できること。
- 7) Web から利用者が自分の執行額を参照できること。
- 8) 発注データの画面から対象書誌を自動的に検索して目録画面を起動できること。
- 9) 発注データを一括して更新することができること。

3.3 雑誌管理

(1) 発注・契約

- 1) 同一年度、同一予算における発注データに対する重複チェックができること。
- 2) 継続物の発注処理が行えること。1 冊単位の発注処理が行えること。
- 3) 契約・精算状態をオンライン画面から変更できること。
- 4) 購入希望者を利用者データベースに登録済の利用者番号で指定できること。
- 5) 自動的に割引率、税率、レート、手数料の処理ができること。
- 6) 同一画面上で前年度／次年度の発注契約情報を呼び出せること。

- 7) 発注管理画面から該当データの受入状況画面を呼び出せること。
 - 8) 発注作成画面から該当データの書誌修正画面を呼び出せること。
 - 9) 発注情報の取消がオンラインで行なえること。
 - 10) 本年度の契約情報を元に次年度の契約情報を 1 件単位／一括で作成できること。
 - 11) 新規及び中止雑誌の登録、修正、削除ができること。
 - 12) 外国雑誌の一括契約、精算、戻入、誌名変遷等の処理が行えること。
 - 13) 他の契約情報を複製することによる契約情報の流用作成が可能なこと。
- (2) 受入
- 1) 今回受入巻号と発行日の予測値が入力フィールドにプリセットされること。
 - 2) 受入画面から巻号情報の修正ができること。
 - 3) 受入画面から該当データの発注契約画面を呼び出せること。
 - 4) 受入画面から該当データの書誌修正画面を呼び出せること。
 - 5) 複本契約の場合は、複本一覧が画面に表示されること。複本が 1 回の操作で受入できること。
 - 6) 受入画面から資料番号や特集記事の情報（巻号タイトル）を登録できること。
 - 7) 受入情報の削除がオンラインから行えること。
 - 8) 増刊号等の不定期な受入が行えること。合併号の受入が行えること。
 - 9) 巻号単位に資料番号を登録し閲覧貸出ができること。
 - 10) 購入及び寄贈雑誌の受入処理が行えること。
 - 11) 受入雑誌の一覧（書誌順、請求者別、納入者別）を出力できること。
 - 12) 業者からのデータを受け入れての自動チェックインが可能なこと。自動チェックインデータに誤りがあった場合には、オンラインで修正できること。
 - 13) 雑誌に印刷されている ISSN バーコードをバーコードリーダーで読み込み、書誌の同定を行えること。
 - 14) 受入処理で配架場所を表示できること。
 - 15) 受入データから雑誌目録の所蔵項目（巻号式、年月式）を自動編集し、OPAC に反映できること。
- (3) 支払・精算
- 1) 支払保留・解除が発注データ 1 件毎に設定できること。
 - 2) 支払状態をオンライン画面から変更できること。
 - 3) 前金、後金、精算の処理が可能なこと。
 - 4) 支払番号を自動付与して、支払処理を行えること。支払番号の手入力も可能なこと。
- (4) 整理
- 1) 発注受入情報から所蔵情報を一括処理にて自動的に作成できること。
 - 2) NACSIS-CAT からデータを取り込み整理に利用できること。
 - 3) CATP プロトコルを使用して、所蔵データを NACSIS-CAT に一括アップロードできること。
- (5) 製本
- 1) 雑誌受入情報を流用して製本発注情報が作成できること。
 - 2) 製本仕様パターンを登録し製本発注処理で利用できること。
 - 3) 製本データ毎に個々の製本仕様を設定できること。
 - 4) 製本準備、製本発注・受入、製本支払処理ができること。
 - 5) 製本情報の登録処理を行い、OPAC に反映すること。
 - 6) 製本情報に資料番号を登録できること。
 - 7) 製本発注情報の修正・取消ができること。
 - 8) 製本データの削除ができること。
- (6) その他
- 1) どの処理段階のデータについても、データの修正・削除ができること。
 - 2) 指定した条件で任意のデータ抽出し、テキストデータに変換して外部媒体に出力でき

ること。

- 3) 各種帳票、統計リストのプリンター出力が行えること。
- 4) 雑誌の刊行頻度に応じた未着リストを出力できること。
- 5) 異なる書誌への巻号の引き取りができること。

3.4 目録管理

- 1) システムの目録規則は国立情報学研究所（NII）の定める目録規則に準拠すること。
- 2) 本学独自の目録を作成できること。
- 3) 図書書誌データは、NACSIS-CAT に準拠する項目のほか、以下の項目を有すること。
 - ・和洋区別
 - ・書誌レベル
 - ・書誌種類
- 4) 図書所蔵データは、NACSIS-CAT に準拠する項目のほか、以下の項目を有すること。

・登録番号	・発注版巻次	・紛失日
・請求記号	・受入日	・紛失回数
・所在	・支払日	・紛失備考
・貸出区分	・発注日	・除籍日
・資料種別	・新着日	・除籍備考
・刷年	・利用開始日	・受入番号
・受入区分	・受入先	・支払番号
・備消区分	・購入金額	・OPAC 用備考
・予算区分	・価格	・メモ
・予算単位	・定価	・検索フラグ
・利用時作業	・通貨単位	
・発注番号	・寄贈者名	
- 5) NACSIS-CAT から書誌・所蔵・典拠データを取り込みローカルデータベース形成に利用できること。
- 6) ローカルデータへの取り込み時に、上書き更新しない項目の指定ができること。
- 7) ローカルデータへの取り込み時に、NACSIS-CAT の書誌データには存在しない巻号がローカルデータに存在した場合、メッセージが表示されること。
- 8) ローカルシステムと NACSIS の画面を、色の相違等で容易に識別できること。
- 9) 目録データ作成において、重複が生じないように考慮されていること。
- 10) 集合／多巻物／物理のレベルで書誌階層の管理ができること。
- 11) 統一書名典拠、著者名典拠の管理ができること。
- 12) 典拠データを統合する処理ができること。
- 13) 様々な抽出条件を指定して、外部媒体へ出力できること。
- 14) 所蔵データから自動的に請求記号ラベルをプリンターに出力できること。
- 15) CATP プロトコルを利用して図書所蔵及び雑誌所蔵データを一括アップロードできること。
- 16) NACSIS-CAT の図書所蔵及び雑誌所蔵データを一括削除できること。
- 17) CATP 形式のデータを一括登録することができること。
- 18) 書誌を統合する処理ができること。
- 19) 所蔵を他の書誌に付け替える処理ができること。
- 20) 目録画面から受入処理ができること。
- 21) 所蔵ごとに紛失と除籍の処理を行えること。紛失および除籍の資料は、OPAC に表示されず、貸出や返却時に警告が表示されること。紛失および除籍を解除すると OPAC に現れること。
- 22) 雑誌の書誌で巻号パターン、発行年月パターン、号次最大値、製本用サイズを管理できること。

- 23)雑誌の書誌で変遷誌名を管理できること。
- 24)雑誌巻号に特集名を入力し、OPAC で検索・表示することが可能なこと。
- 25)紛失日の範囲および資料 ID の入力で除籍処理を行えること。
- 26)所蔵データからバーコードラベルをプリンターに出力できること。
- 27)各種の帳票（紛失一覧、除籍一覧、原簿）を印刷できること。
- 28)図書所蔵、雑誌受入データを一括更新できること。
- 29)CSV 形式の図書所蔵データを一括登録することができること。
- 30)所蔵を持っていない書誌を一括して削除できること。
- 31)ローカルシステムの図書と雑誌を同時に検索できること。
- 32)NACSIS-CAT の図書と雑誌を同時に検索できること。
- 33)冊子体以外の資料（電子資料等）が管理できる枠組みを持つこと。
- 34)電子ブック、電子ジャーナルの一括登録用のツールを備えていること。また、リンク切れ URL の自動チェックが可能なこと。
- 35)目次データの登録が可能なこと。登録した目次データは、OPAC にて検索、表示できること。
- 36)書誌、所蔵を更新した際、更新者の ID と更新したレコード ID、削除・更新・新規作成の状態を出力できること。

3.5 閲覧管理

(1) 貸出・返却

- 1) 利用者番号、資料番号の入力にバーコードリーダー、OCR リーダー、磁気カードリーダー等が利用できること。
- 2) 本学で使用するバーコードを作成できること。
- 3) 貸出区分を 10 種類以上登録できること。
- 4) 返却期限日がカレンダーや貸出条件を元に自動で設定されること。また、マニュアルでも設定できること。
- 5) 未登録資料の貸出ができること。
- 6) 禁帯出資料の強制貸出機能を有すること。
- 7) カウンタ返却の他に直前の開館日の日付でブックポスト返却が行なえること。
- 8) 予約がかかった資料が返却された場合は画面にメッセージが表示されること。
- 9) 予約保留中の資料がある利用者がカウンタで貸出返却した場合は、画面に予約保留中資料があることを伝えるメッセージが表示されること。
- 10)貸出する利用者に引き渡し可能な貸借現物、文献複写物がある場合にメッセージが表示されること。
- 11)紛失中または除籍済みの未貸出資料を返却された場合に、画面にメッセージが表示されること。
- 12)利用者に対する連絡を貸出画面のメモ欄から確認できること。
- 13)返却処理は利用者番号を読むことなく資料 ID のみで可能なこと。
- 14)下記の条件の組み合わせにより、貸出冊数、貸出可否、返却期限及び延長回数などの貸出規定が自由に設定できること。なお、下記条件はコード表として管理され、自由に設定変更が可能なこと。
 - 利用者の区分（学生、教員など）
 - 資料の所在（図書館開架、研究室など）
 - 貸出区分（一般図書、指定図書、禁帯出など）
 - 貸出の種類（一般貸出、研究室貸出など）
- 15)延滞した利用者に対して、新規貸出の停止や一定期間の貸出冊数制限などのペナルティが与えられること。
- 16)下記条件指定の組み合わせにより、貸出状況が自由に検索できる機能を有すること。なお、貸出返却等の履歴データは削除を指示するまで無制限に蓄積できること。

- 貸出状況（貸出中、返却済み、延滞中など）
 - 日付の種類（貸出日、返却日、返却予定日など）
 - 日付の範囲（実際の日付で指定）
 - 利用者の区分（学生、教員など）
 - 資料の所在（図書館開架、研究室など）
 - 貸出区分（一般図書、指定図書、禁帯出など）
 - 貸出の種類（一般貸出、研究室貸出など）
 - 利用者 ID（バーコード入力）
 - 資料 ID（バーコード入力）
- 17) 資料 ID を読み込むと、資料の状況、利用状況が一覧で表示できること。
- 資料の状況（未登録、紛失、除籍、複数あり）
 - 利用状況（利用可・不可、貸出・延滞・予約・搬送）
- 18) 業務サーバにアクセスできない時、オフライン貸出処理ができること。なお、業務サーバが復旧した時には、オフライン貸出処理の結果がデータベースに登録され、以下のエラーデータがあった場合はプリンターに出力されること。
- 貸出処理ができなかったデータ
 - 通常は貸出できないが、強制的に貸出処理をしてしまったデータ
- 19) 貸出、返却、予約などの状況は、リアルタイムで OPAC に反映されること。
- 20) 資料を借りている利用者に対して、返却予定日前に E-Mail による督促がシステムから自動的に行えるよう設定できること。
- 21) 延滞者に対して、E-Mail による督促がシステムから自動的に行えるよう設定できること。
- 22) 閲覧端末から目録検索が行えること。
- 23) 貸出中資料の紛失処理を管理画面から行えること。
- 24) 閲覧端末から予約のかかった貸出中の資料の検索が行えること。
- 25) 貸出管理画面から利用者に対して貸出情報をメール送信できること。
- 26) 貸出返却画面から利用者データの修正が行えること。
- 27) 貸出返却画面から利用者の貸出情報・予約情報を参照できること。
- 28) 他館資料が返却された時、自動的に搬送情報を作成できること。
- (2) 利用者管理
- 1) 利用者情報をリムーバブルメディアにより一括に登録・更新ができること。
 - 2) 利用者情報の登録・修正・削除が行えること。
 - 3) 利用証の紛失処理が行えること。
 - 4) 利用者個人情報の閲覧を制限できる機能を備えること。
 - 5) 利用者除法管理画面から利用者の貸出情報・予約除法の参照ができること。
 - 6) 以下の利用者の情報を管理できること。各業務で使用する利用者情報はここで設定したものを自動的に使用できること。
- | | |
|-----------|------------------|
| • 氏名 | • 有効無効フラグ |
| • 利用者 ID | • メモ |
| • 氏名の読み | • 貸出・返却時に参照される備考 |
| • 利用者区分 | • ペナルティレベル |
| • 所属 | • 停止期限 |
| • 学生教員番号 | • 延滞日数 |
| • 学年 | • ペナルティ回数 |
| • ログイン名 | • 書籍紛失回数 |
| • メールアドレス | • カード紛失回数 |
| • 学内連絡先 | • 性別 |
| • 利用開始日 | • 生年月日 |
| • 有効期限 | • 郵便番号（複数） |

・電話番号（複数）

・住所（複数）

(3) 予約

- 1) 業務端末から貸出中資料及び未貸出資料に対して書誌単位、所蔵単位で複数の予約処理がかけられること。
- 2) 利用者が OPAC 画面から、貸出中又は未貸出の資料に対して書誌単位の予約がかけられること。また、既に予約がかかっている資料に対しても予約がかけられること。その際、予約前に待ち順番を表示すること。
- 3) 研究室貸出分については予約対象外に設定できること。
- 4) 予約や予約者に対して、予約の取り消しができること。
- 5) 利用者が予約を行う際に、認証によるセキュリティチェックを行うこと。
- 6) 未貸出資料を利用者が予約し、他館から取り寄せができること。
- 7) 搬送状態の資料を OPAC 画面から確認することができること。
- 8) 予約の保留期限を計算する際に、休館日を日数のカウントに含めるかどうかを指定できること。

(4) 督促

- 1) 督促状の形式に帳票が出力できること。

(5) 利用者情報管理

- 1) 利用者情報を外部のデータより一括に登録・更新ができること。
- 2) 利用者情報の登録・修正・削除が行なえること。
- 3) 登録済の利用者情報を一括して更新できること。
- 4) 利用証の紛失処理が行えること。
- 5) 利用者個人情報の閲覧を制限できる機能を備えること。
- 6) 利用者情報管理画面から利用者の貸出情報・予約情報の参照が可能なこと。

3.6 図書館間相互貸借

- 1) 国立情報学研究所 (NII) に接続し、NACSIS-ILL での文献複写及び現物貸借の依頼、受付処理ができること。
- 2) NACSIS-ILL からデータをダウンロードしてローカル ILL データ作成が行なえること。
- 3) NACSIS-ILL 以外からの依頼情報を処理できること。その際、ローカル書誌を取り込むことができること。
- 4) ローカル側の参加組織データ、利用者データをメンテナンスできること。なお、利用者データは閲覧管理と共用できること。
- 5) 図書館間相互貸借管理で必要とする帳票、統計リストをプリンターに出力できること。
- 6) 利用者ごとの使用額の一覧を出力できること。
- 7) 資料の到着をユーザーにメールで通知できること。
- 8) 到着資料の利用者への引渡しと返却の管理ができること。また、利用者から図書館への返却期限の設定ができること。
- 9) あらかじめ依頼先（受付候補館）を登録しておき、NACSIS-ILL への依頼時に候補館を自動選択できること。また、依頼画面上で変更できること。
- 10) 利用者がウェブから依頼したデータを利用して、NACSIS-ILL へ依頼できること。
ISSN や ISBN が入力されている場合には、書誌検索を自動的に行うこと。
- 11) 受付時に自館の所蔵を画面または帳票に表示できること。
- 12) 料金相殺サービスの参加館を識別できること。
- 13) 料金相殺情報を一括して登録できること。
- 14) 依頼候補館を Excel/CSV 出力できること
- 15) ローカル ILL データの画面から、NACSIS の関連情報へ遷移できること。
- 16) 学内からの文献複写申し込みにおいて、文献をスキャンしたイメージを PDF ファイルとして、申込者に提供するサービスに対応できること。
- 17) NACSIS-ILL に記載されている複写料金メモの情報を自動的に取得できること。
- 18) あらかじめ依頼先（受付候補館）の優先順位と申込制限回数を登録しておき、表示できること。また申込制限回数に達した場合は、自動的に優先順位を最下位に変更できること。

3.7 所在管理・蔵書点検

- 1) 資料の所在管理ができること。
- 2) 資料 ID の入力により、当該資料の所在の一括変更ができること。
- 3) ハンディターミナル、バーコードリーダーを用いた蔵書点検が可能なこと。
- 4) 所在や和洋区別、貸出区分、予算区分等と、請求記号の範囲により、点検範囲を指定できること。
- 5) 請求記号順に並んでいない資料のリストを出力できること。
- 6) 紛失日や資料 ID の入力により、紛失になった資料を一括して除籍できること。
- 7) バーコード入力時に、即時に蔵書点検処理を行う機能を備えていること。
- 8) 蔵書点検処理をバックグラウンドで実行できること。
- 9) 分館ごとに独立して蔵書点検処理が実行できること。処理する分館を複数指定できること。

3.8 統計機能

- 1) 集計条件設定が容易にでき、かつそれを保存して再利用できること。
- 2) 集計結果は画面確認できること。また Excel への出力が可能なこと。
- 3) 過去の集計結果をいつでも確認できること。
- 4) 文部科学省および日本図書館協会の統計データを一括で集計できること。
- 5) 出力単位のグループ化ができること。
- 6) 集計をバックグラウンドで実行できること。

3.9 目録検索 (OPAC)

- 1) 各図書館による所蔵の区別を意識しない検索ができること。
- 2) 学内 LAN またはインターネットを経由して、学内及び学外からの利用が可能であること。
- 3) Web サーバを介し、ブラウザソフトによる利用ができること。
- 4) 図書館のホームページ (ポータルサイト) を CMS (Contents Management System) の Drupal により作成する機能を有すること。
- 5) オンラインヘルプ等の機能により使用法の説明等が参照できること。
- 6) 英語表示の画面に切り替えられること。
- 7) フリーキーワード (文字列) による検索ができること。文字列全体での前方一致、後方一致、部分一致、完全一致検索が行えること。
- 8) キーワードの入力については、大文字・小文字、全角・半角が区別されことなく、正規化されて利用できること。また、カタカナ表記の違い、記号 (中点、カンマ等)、異体字漢字 (国または國など)、音標記号つきアルファベットに対しても正規化されて利用できること。
- 9) 過去に使用された検索キーワードを利用した検索キーワード候補の表示ができること。
- 10) 正規化のルールとして NII の漢字統合インデクスと同等の機能を有すること。
- 11) 形態素解析を用いた英単語単位の検索が行えること。英単語単位での前方一致、後方一致、部分一致、完全一致検索が行えること。
- 12) AND、OR、ANDNOT 演算を使用して検索条件が指定できること。
- 13) 複数のキーワードが近くに出現する (2つのキーワードの間にある文字数が何文字以上何文字以下である) ものを検索できること。 (近傍位置検索)
- 14) 自然文検索が行えること。
- 15) タイトルとして、目録データベースの本書名、副書名、別書名、内容細目など書名に関する項目の包括的な検索 (項目を指定せず、複数の項目を同時に検索すること) ができること。
- 16) 編著者名として、目録データベースの責任表示、著者標目など著者に関する項目の包括的な検索ができること。
- 17) 雑誌の特集名 (巻号タイトル) で検索できること。
- 18) 図書館に独自のコード表や項目を、画面上で検索条件に指定できること。
- 19) 図書館独自のカテゴリによる検索が可能なこと。またカテゴリには階層構造を持たせることができること。
- 20) 検索結果の画面表示は、一覧表示とその詳細表示ができること。

- 21) 一覧表示画面に、所蔵館あるいは所在と請求記号を表示できること。
- 22) 検索結果の詳細表示で、ワンクリックで前後書誌の詳細表示を行えること。
- 23) 検索結果の一覧表示件数を画面から指定できること。
- 24) ゲストユーザの検索結果の一覧表示件数を指定できること。
- 25) 検索結果の一覧は適合度による並べ替えができること。
- 26) 検索結果の一覧は新着日、貸出回数、予約数、閲覧回数を反映した順番で並べ替えできること。
- 27) 検索結果の一覧は貸出回数と予約回数の多い順に並べ替えできること。
- 28) 検索結果の一覧ではファセットによる絞り込み機能を有すること。
- 29) 検索結果の一覧では書評（Amazon レビュー）の表示機能を有すること。
- 30) 検索結果の一覧では目次、あらましとして日外アソシエーツの目次、あらましを表示する機能を有すること。ただし、日外アソシエーツの利用料金は大学側負担とする。
- 31) おすすめ（レコメンド）機能を有すること。
- 32) 図書館利用者が資料に対するレビューを登録できること。
- 33) 図書館利用者が登録したレビューの表示機能を有すること。レビューの表示方法は、すべてのレビューを表示する方法と承認されたレビューのみ表示する方法のどちらかを選択できること。
- 34) あらかじめ設定されたメンバーが、レビューの削除や、レビューの承認などの管理ができること。
- 35) Refworks への取り込み、RIS 形式での保存機能を有すること。
- 36) 検索結果の一覧画面および詳細画面で、表示された資料をマークするブックマーク機能があること。また、異なる検索条件のブックマークを、後でまとめて表示・印刷ができること。また、メール送信およびファイルダウンロードも可能なこと。
- 37) セキュリティのため、検索終了ボタン及び操作のタイムアウトによりブックマークを消すこと。
- 38) 検索結果の詳細表示で、シリーズ名、著者名、件名のリンクから、それぞれ同じシリーズ、同じ著者、同じ件名の資料一覧を表示できること。
- 39) 仮想的な書架を設定でき、仮想書架の一覧表示や、仮想書架の前後にある図書の詳細表示が可能なこと。また、仮想書架は 10 個まで設定できること。
- 40) 雑誌については、書誌・所蔵データの他に雑誌管理で受け付けた各巻号データ（巻号、出版年月、巻号タイトル、請求記号、製本状況など）を表示すること。
- 41) 書誌や所蔵について、図書館独自のコードや項目を表示できること。
- 42) 検索結果に発注中、貸出中、予約保留中などの最新の状況を表示し、貸出中の資料については、返却予定日を表示すること。
- 43) 検索結果から、利用者が貸出中および未貸出資料の予約ができること。
- 44) 検索結果の詳細表示で、請求記号を背ラベルのイメージで表示できること。
- 45) 背ラベルの色を選択することができること。
- 46) システムの更新処理の時間帯を除き 24 時間の利用が可能なこと。
- 47) OpenURL に対応し外部システムからデータを受け取り、ローカルの所蔵検索および文献複写依頼へのデータ流用が可能なこと。但し、対象となる外部システムについては別途協議の上、決定するものとする。
- 48) 一覧表示から条件入力画面に戻ることなく、絞り込みや条件変更などキーワード検索が継続して実施できること。
- 49) スタイルシートによる画面デザインの変更が可能なこと。
- 50) 目録を登録した電子ブック、電子ジャーナルの検索が可能なこと。また、検索結果から該当する電子ブック、電子ジャーナルサイトへのリンクが可能なこと。
- 51) Amazon、GoogleBooks、日外アソシエーツとの連携により図書の画像イメージを表示する機能を備えること。
- 52) 現システムで接続中の福井県内図書館総合目録（横断検索）システムに継続して接続すること。なお、本学図書館システムあるいは福井県立図書館システムの更新、システム・アップなどにより接続できなくなった場合は、必要に応じ、受注者の責任において、システムの変更作業を行うこと。

- 53) NACSIS-CAT の検索結果詳細画面において、CiNii Books のリンクを参照できること。
- 54) 検索時にスペルミスをチェックする機能を有すること。
- 55) よく読まれている資料のランキングを表示することができること。カテゴリ毎のランキングを表示できること。
- 56) 検索した資料について、その資料に関連する新着資料を表示できること。
- 57) OPAC のデータが、OAI-PMH プロトコルを用いて、他のシステムから利用できること。
- 58) スマートフォンに対応していること。以下の機能を利用できること。
 - ・ 検索
 - ・ ファセットによる絞込み
 - ・ 詳細画面の閲覧
 - ・ 資料の要旨・目次の表示
 - ・ 私の本棚
 - ・ 資料の予約
 - ・ お勧め機能
 - ・ ベストリーダーのサムネイル表示
- 59) 横断検索ができること。国会図書館、CiNii Articles、CiNii Books、Google Books、JAIRO、PubMed、Amazon、WorldCat、医中誌 Web、Scopus、ScienceDirect の外部検索サービスを利用できること。
- 60) 学内用 OPAC と学外用 OPAC を個別に運用でき、学外用 OPAC で検索できる資料は学内用 OPAC で検索できる資料と比較して制限できること。
- 61) 探したい資料の目次のキーワードから検索できること。また、最新の目次情報は、本学による設定を必要とせず、システム側で自動登録されること。

3.10 ポータル機能

- 1) 利用者の個人用ページの提供が可能なこと。個人用ページはパスワードにより保護されること。
- 2) 個人用ページを利用する際は、本学ネットワークで既に採用されている認証システムと連携すること。
- 3) 利用者によるパスワードおよびメールアドレスの変更ができること。
- 4) 利用者個人向けのお知らせを表示できること。
- 5) 利用者個人の以下の状況を表示できること。
貸出状況、貸出履歴、予約状況、文献複写依頼状況、現物借用依頼状況、図書購入依頼状況
- 6) 利用者の登録したキーワードに基づく新着資料情報の表示が可能なこと。また、電子メールによる通知も可能なこと。
- 7) 利用者個人用ページから、文献複写依頼、現物借用依頼、図書購入依頼が可能なこと。また、自館の所蔵資料や NII の総合目録データベースの検索結果から書誌データを流用できること。
- 8) 利用者個人用ページから、貸出延長、予約取消しが可能なこと。
- 9) 利用者個人用ページから、複写依頼、借用依頼の取消しが可能なこと。
- 10) 一度認証すれば、ログアウトあるいはタイムアウトするまで、認証の状態が保持されること。
- 11) 利用者がブックマークした資料情報を個人毎のフォルダに登録し恒久的に利用できること。また、フォルダは個人毎に複数作成でき、フォルダ間の情報移動およびコピーが可能なこと。
- 12) Web サービスにより、以下の情報を取得できること。
 - ・ お知らせ欄
 - ・ 借りている資料一覧
 - ・ 予約した資料一覧
 - ・ 複写依頼、借用依頼した資料一覧
 - ・ 購入依頼した資料一覧
- 13) LDAP 認証とローカル認証の併用が可能なこと。LDAP を参照し、ログイン出来ない場合は自動的にローカル認証へ切り替える機能を有すること。

14) 検索した資料について、過去にその資料を借りたことがあるかどうかを表示できること。

3.1.1 予算管理

- 1) 予算単位ごとに予算期間、予算額、残額、執行額、発注額を管理できること。
予算額を超過したときにチェックするかどうかを管理できること。
- 2) 利用者に対して複数の予算単位を割り当てることができること。
- 3) 予算期間は、年度単位に依存しない任意の期間を設定できること。
- 4) 執行額を集計できること。
- 5) 利用者が予算単位ごとの予算額、執行額、受入冊数、残額を確認できること。自分で利用した予算の執行額、受入冊数を確認できること。
- 6) 利用者ごとに予算を参照させるかどうかを制限できること。
- 7) 帳票を印刷できること。

3.1.2 システム管理

- 1) システム及びデータベースの維持、管理等が容易であること。
- 2) データベースの修正、再編成、バックアップが容易であること。
- 3) アクセス時にパスワードなどを用いて、ユーザーを識別、認証する機能を有すること。
- 4) OPAC およびポータル機能についてアクセス数の集計ができること。また、集計結果は CSV 形式でファイル出力できること。

3.1.3 OCR・バーコード印刷

- 1) 現在使用中の資料 ID、利用者 ID を本学指定のシートに印刷し、貸出返却処理、検索などに利用できること。本学固有のチェックデジット・桁数構成について、仕様の変更に応じること。加えて以下に示すバーコード印刷に対応すること。また、利用者カードの仕様が変更された場合、それに対応すること。
- 2) バーコードおよび OCR 用の資料 ID を印刷できること。
- 3) バーコード印刷について、所在別の請求記号順に印刷できること。また、欄外に当該請求記号が印刷できることが望ましい。

4. リンクリゾルバ

4.1 導入目的

電子ジャーナルにより提供される文献など電子化された学術情報資源がインターネット上に多数存在する中、本学が入手・利用可能な電子文献へ利用者を誘導（ナビゲーション）するシステム（リンクリゾルバーシステム）は、国内外の学術・研究図書館で導入されている。同ナビゲーションシステムは、Google Scholar などの無料の検索エンジンを含む各種学術データベースの文献検索結果から、学内の所蔵を含めたインターネット上に存在するもっとも有効な所蔵元に利用者を誘導するものである。機関リポジトリに収録されている著者版の文献への文献単位のナビゲーションも可能であり、本学が所蔵していない文献の入手も可能となる。

本システムの導入は、利用者が文献を検索する際の利便性を高め、かつ本学外のインターネット情報資源から文献を入手する可能性を広げ、同時に本学内の所蔵文献の利用を高めることを目的とする。

4.2 要求要件

(1) リンクリゾルバーシステム

電子ジャーナル、本学内所蔵、本学外文献などの異なる情報資源に対して透過的なアクセスを提供するシステムとして、以下の機能を提供すること。

- 1) OpenURL に準拠したデータベースの検索結果（文献）にリンク（リンクテキストあるいはリンクアイコン）を表示し、リンクがクリックされた場合に、当該文献を入手するためのリンクナビゲーション画面（以下、リンクメニューという）を出現させることができること。
- 2) リンクメニューには以下のリンクを表示できることとする。

- ・ 本学が購読している電子ジャーナルへのリンク
 - ・ 無料で提供されている電子ジャーナルへのリンク
 - ・ AIRway を経由した国内外のリポジトリに収録された無料文献へのリンク
 - ・ 本学内の所蔵を確認するための所蔵システムへのリンク
 - ・ 上記リンクで当該文献を入手できない場合に外部文献複写を依頼するためのリンク
- 3) Z39.50 や SRU/SRW 等の通信プロトコルに対応し、リンクメニューを表示する前に所蔵システムにて冊子体の所蔵を確認し、所蔵の有無によりリンクメニューの項目を動的に変更する機能を有すること。具体的には、冊子体所蔵情報を確認できた場合にのみ所蔵情報へのリンクを表示し、そうでない場合は所蔵情報へのリンクを表示しないこと。また、所蔵情報が確認できない場合かつ 2. の (ア) (イ) (ウ) の何れも利用可能でない場合にだけ、(オ) の外部文献複写依頼のためのリンクを表示するよう調整が可能であること。
 - 4) (ウ) の AIRway を経由した無料文献へのリンクについて、そのようなリンクが可能な場合にのみ表示し、リンクが不可能でない場合には表示させないよう、リンクメニューを表示する前に確認を行うための機能（プリチェック機能）を有すること。
 - 5) 2. の (オ) の外部文献複写を依頼するためのリンクにおいては、文献情報を埋め込んだ URL を生成し、送信できること。文献複写依頼システムが URL に埋め込まれた文献情報の受信に対応している場合、文献情報を文献複写（および貸借）申込画面にそのまま転記できるリンクを提示することができること。
 - 6) DOI (Digital Object Identifier : デジタルオブジェクト識別子) を使った CrossRef 経由のナビゲーション (DOI リンク) が可能であること。
 - 7) データベース等から受信された情報に DOI が含まれていない場合にも、より正確なリンクを実現するために、文献の書誌情報をもとに CrossRef から DOI を入手し、DOI リンクを実現する機能を有すること。
 - 8) リンクメニューを二重化し、当該文献を入手するためのサービスとその文献に関連する情報へのリンクサービスを別々のメニューに分けて表示することができること。また、後者のメニューは標準で非表示とし、利用者が必要に応じて表示できるようにすること。
 - 9) 文献の書誌情報を直接入力し、リンクメニューを表示させる機能を有すること。
 - 10) 日本語/英語の切り替えが可能であること。
- (2) 電子ジャーナル・電子ブックリスト
- リンクリゾルバーシステム (ナビゲーションシステム) に設定した購読情報を基に、以下にあげる機能を有する電子ジャーナル・電子ブックリストを提供すること。
- 1) 電子ジャーナルリストでは日本語タイトルの表示・検索 (完全一致、中間一致、前方一致) に対応していること。日本語タイトルは正規化された読みに従い、正しくソートされていること。
 - 2) 電子ジャーナルリストは中国語、ハングルの表示・検索・ソートに対応していること。中国語はピンイン (pinyin) で検索が可能なこと。
 - 3) 電子ジャーナル・電子ブック検索時に、入力されたキーワードをもとに候補を表示する機能を有すること。
 - 4) 任意のカテゴリ・サブカテゴリに属するタイトルリストを、URL を指定して呼び出すことができること。
 - 5) 利用者がベンダー名を選択することでベンダー別のタイトルリストを抽出し、表示できる機能を有すること。
 - 6) 設定可能な電子ジャーナル・電子ブックの総数に上限がないこと。
 - 7) タイトル変遷情報やサブリメントシリーズなどの関連誌の情報を利用者に提供する機能を有すること。
 - 8) 日本語/英語の切り替えが可能であること。
 - 9) 査読済みの電子ジャーナルを明示する機能を有すること。
 - 10) 電子ブックリストでは Amazon、Google Books 等から取得したサムネイルを表示する機能を有すること。
- (3) 管理者機能
- 管理者が管理者機能を用いて次に記載する項目を実行できること。
- 1) リンク先が複数ある場合に、管理者が意図的にこれらを制御することができる。

- 2) リンクメニューへの各リンクの登場順位や登場条件を制御することができる。
 - 3) 購読タイトルの設定を1タイトル毎に修正することができる。また、あらかじめ作成されたパッケージ毎のタイトルのリストを一括でアップロードし、設定・修正することができる。
 - 4) 設定された購読タイトルはリンクメニューに即時反映されること。
 - 5) 設定された購読タイトルの情報を外部に出力することができる。
 - 6) パッケージ間の重複タイトルを調査する機能を有する。
 - 7) 利用者動向を管理する統計（リンク元データベース別・リンク先サービス別・IP アドレスごとの利用頻度集計、メニューに表示された回数、クリックされた回数、利用できない電子ジャーナルの集計、使用されていない電子ジャーナルの同定、電子ジャーナルタイトル毎の利用頻度集計、電子ブックの利用頻度集計、等）を取得することができる。
 - 8) **COUNTER** 準拠の利用統計を **SUSHI** プロトコルにより自動的に取得し、集計表示する機能を有する。
- (4) サービス提供体制
- 1) 本システムの導入に際し、図書館職員に導入時の説明を行うこと。
 - 2) 管理者向けの講習会を導入時に実施すること。講習会の日程および内容は図書館と協議の上行うこと。講習会に付随する経費は本契約に含む。
- (5) 運用/保守体制
- 1) 本ナビゲーションシステムは運用上の安定性・障害時の迅速な対応のために、国内に設置された機器を用いた、国内技術サポートスタッフによるサービスであることとする。なお、少なくとも3年以上のサービス提供実績を有すること。
 - 2) 必要に応じて技術サポートスタッフが本学を訪問し、デザイン改修や運用についての打合せを行うことが可能な体制をとること。
 - 3) 平日 9:00～17:15 までの間、障害受付が行えるサポート体制を整えること。

5. 機器構成

5.1 機器台数

(1) 業務データベースサーバ	1 台
(2) 検索データベースサーバ	2 台
(3) バックアップ用 NAS	1 台
(4) ラックおよびコンソール機器	1 式
(5) 管理用端末（デスクトップ PC）	2 台
(6) 業務用端末（デスクトップ PC、予備機を含む）	11 台
(7) 業務用端末（ノート PC）	2 台
(8) 検索用端末（デスクトップ PC）	5 台
(9) 業務用カラーレーザープリンタ	1 台
(10) 業務用小型モノクロレーザープリンタ	3 台
(11) 入退出管理システム（電気錠）	1 式
(12) 防犯ビデオカメラ設備	1 式
(13) OCR スキャナ	6 台
(14) 蔵書点検用 OCR スキャナ	5 台
(15) ネットワーク機器	5 式

5.2 ハードウェア

- (1) 業務データベースサーバ
設置場所、台数は、福井キャンパス ネットワーク管理室 1 階 サーバ室に 1 台とする。
- 1) OS は、Red Hat Enterprise Linux 6.5 相当以上の Linux とし、5 年間のサブスクリプション及びサポートを付与すること。
 - 2) CPU は、Xeon プロセッサ E5-2623v3（4 コア/3GHz/10MB）相当以上の性能・機能を有すること。
 - 3) 主記憶装置は ECC 機能付きで 16GB 以上を有すること。
 - 4) 物理容量が 300GB 以上、回転数 15,000rpm 以上、SAS 12Gbps のハードディスクを 2

本以上有し、ハードウェア RAID-1 構成とすること。また、ホットスワップに対応していること。

- 5) SAS アレイコントローラは、SAS 12Gbps インターフェースで 2GB 以上のキャッシュを有すること。
- 6) 内蔵 DVD-ROM ドライブを有すること。
- 7) ネットワークインターフェースとして 10/100/1000BASE-T x 4 個以上を備えること。そのうち 2 つ以上を本学ネットワーク接続用として使用できること。
- 8) インターフェースは、ディスプレイ用アナログ RGB を 1 個以上、USB3.0 を 4 個以上有すること。
- 9) 電源は冗長化を行うこと。
- 10) 本体形状はラックマウント型 (1U) であること。
- 11) 必要な電源、ネットワークは本学にて用意する。
- 12) 停電時にシステムを自動的にシャットダウンさせる機能を有し、本体に 5 分間以上電源が供給可能である無停電電源装置を有すること。
- 13) サーバ本体、無停電電源装置には 5 年間のオンサイト保守を付与すること。
- 14) サーバ本体、無停電電源装置は本調達で用意する 19 インチラックに搭載し、電源、ネットワーク等必要な配線をする。

(2) 検索データベースサーバ

設置場所、台数は、福井キャンパス ネットワーク管理室 1 階 サーバ室に 2 台とする。

- 1) OS は、Red Hat Enterprise Linux 6.5 相当以上の Linux とし、5 年間のサブスクリプション及びサポートを付与すること。
- 2) CPU は、Xeon プロセッサ E5-2623v3 (4 コア/3GHz/10MB) 相当以上の性能・機能を有すること。
- 3) 主記憶装置は ECC 機能付きで 16GB 以上を有すること。
- 4) 物理容量が 300GB 以上、回転数 15000rpm 以上、SAS 12Gbps のハードディスクを 2 本以上有し、ハードウェア RAID-1 構成とすること。またホットスワップに対応していること。
- 5) SAS アレイコントローラは、SAS 12Gbps インターフェースで 2GB 以上のキャッシュを有すること。
- 6) 内蔵 DVD-ROM ドライブを有すること。
- 7) ネットワークインターフェースとして 10/100/1000BASE-T x 4 個以上を備えること。そのうち 2 つ以上を本学ネットワーク接続用として使用できること。
- 8) インターフェースは、ディスプレイ用アナログ RGB を 1 個以上、USB3.0 を 4 個以上有すること。
- 9) 電源は冗長化を行うこと。
- 10) 本体形状はラックマウント型 (1U) であること。
- 11) 必要な電源、ネットワークは本学にて用意する。
- 12) 停電時にシステムを自動的にシャットダウンさせる機能を有し、本体に 5 分間以上電源が供給可能である無停電電源装置を有すること。
- 13) サーバ本体、無停電電源装置には 5 年間のオンサイト保守を付与すること。
- 14) サーバ本体、無停電電源装置は本調達で用意する 19 インチラックに搭載し、電源、ネットワーク等必要な配線を接続すること。

(3) バックアップ用 NAS

設置場所、台数は、福井キャンパス ネットワーク管理室 1 階 サーバ室に 1 台とする。

- 1) 本体形状はラックマウント型 (1U) であること。
- 2) CPU は 1.33GHz デュアルコアプロセッサ Marvell ARMADA XP 相当以上であること。
- 3) ハードディスクは 8TB 以上を有すること。
- 4) 無停電電源装置に接続し、停電時にシステムを自動的にシャットダウンさせる機能を有すること。

(4) ラックおよびコンソール機器

設置場所は、福井キャンパス ネットワーク管理室 1 階 サーバ室とする。

- 1) 24U 以上の 19 インチラック、1 式を提供すること。
- 2) ラックには、転倒防止用スタビライザーと固定式汎用テーブル、スライド式汎用テーブル、機器取り付け用ネジ 50 セットを添付すること。
- 3) 解像度 1280x1024 ドットの 17 インチ液晶、OADG 準拠 109A 日本語キーボード、静電容量方式タッチパッドを搭載した 1U のコンソール装置を 1 台用意すること。
- 4) 今回調達するサーバを接続可能な切替機及びその接続に必要なケーブルを用意すること。
- 5) 業務データベースサーバ、検索データベースサーバ、バックアップ用 NAS、無停電電源装置等サーバ関連機器は全てラック装置内に格納し、固定可能な機材は全て固定すること。
- 6) ラック搭載する機材は全て無停電電源装置に接続すること。停電時には正常終了する給電ができること。

(5) 管理用端末（デスクトップ PC）

設置場所、台数は、福井キャンパス ネットワーク管理室 1 階 サーバ室に 2 台とする。

本端末は、従来の業務アプリケーションサーバ及びターミナルサーバの代替品の位置付けである。

- 1) デスクトップタイプのパソコン端末で、省スペース型であること。
- 2) CPU はインテル® Core™i3-6100 (3.7GHz/2 コア/4 スレッド/3MB) 以上のスペックを有すること。
- 3) PC4-2133 DDR4 SDRAM 4GB 以上のメモリを有すること。
- 4) OS は Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上とすること。
- 5) 320GB 以上のハードディスク装置を有すること。
- 6) 1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T に対応したネットワークインターフェース (RJ-45) を有すること。
- 7) 解像度 1280×1024 ドット以上、最大 1677 万色を同時表示できる 19 インチ以上のカラー液晶ディスプレイを有すること。
- 8) 抗菌キーボード及び USB 接続の光学式マウスを有すること。
- 9) USB インターフェースは、USB2.0 準拠を 2 個以上、USB3.0 準拠を 6 個以上有すること。
- 10) スーパーマルチドライブを有すること。
- 11) マイクロソフト Office Professional Plus 2016、ウィルス対策ソフト及び Adobe Acrobat 最新版のインストール、設定を行うこと。
- 12) Symantec Ghost 相当のソフトウェアを以って、処理されたデータの復元等が可能であること。
- 13) 待機時の消費電力をゼロにするメインスイッチを装備していること。
- 14) 電源連動型サービスコンセント（本体内部蔵）であること。
- 15) 平日 9：00～17：15 において、障害発生時はオンサイトにて速やかに対応すること。

(6) 業務用端末（デスクトップ PC）

設置場所、台数は、福井キャンパス 1 階 図書整理室に 7 台、同閲覧室に 2 台、小浜キャンパス 2 階分室に 1 台、予備機 1 台（合計 11 台）とする。

- 1) デスクトップタイプのパソコン端末で、省スペース型であること。
- 2) CPU はインテル® Core™i5-6500 (3.2GHz/4 コア/4 スレッド/6MB) 以上のスペックを有すること。
- 3) PC4-2133 DDR4 SDRAM 4GB 以上のメモリを有すること。
- 4) OS は Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上とすること。
- 5) 320GB 以上のハードディスク装置を有すること。
- 6) 1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T に対応したネットワークインターフェース (RJ-45) を有すること。
- 7) 解像度 1280×1024 ドット以上、最大 1677 万色を同時表示できる 19 インチ以上のカラー液晶ディスプレイを有すること。
- 8) 抗菌キーボード及び光学式マウスを有すること。
- 9) USB インターフェースは、USB2.0 準拠を 2 個以上、USB3.0 準拠を 6 個以上有すること。
- 10) スーパーマルチドライブを有すること。

- 11) ペンタイプの OCR 装置と接続すること。
 - 12) マイクロソフト Office Professional Plus 2016、ウィルス対策ソフト及び Adobe Acrobat 最新版のインストール、設定を行うこと。
 - 13) Symantec Ghost 相当のソフトウェアを以って、処理されたデータの復元等が可能であること。
 - 14) 待機時の消費電力をゼロにするメインスイッチを装備していること。
 - 15) 電源連動型サービスコンセント（本体内蔵）であること。
 - 16) 平日 9：00～17：15 において、障害発生時はオンサイトにて速やかに対応すること。
- (7) 業務用端末（ノート PC）
- 設置場所、台数は、福井キャンパス 1 階 図書整理室に 1 台、小浜キャンパス 2 階 分室に 1 台（合計 2 台）とする。
- 1) ノートタイプのパソコン端末であること。
 - 2) CPU はインテル® Core™ i5-4310M プロセッサ（2.70GHz/2 コア/4 スレッド/3MB）以上のスペックを有すること。
 - 3) 4GB 以上のメモリを有すること。
 - 4) OS は Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上とすること。
 - 5) 320GB 以上のハードディスク装置を有すること。
 - 6) 1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T に対応したネットワークインターフェース（RJ-45）を有すること。
 - 7) 解像度 1366×768 ドット以上、最大 1677 万色を同時表示できる 15.6 型 HD 以上のカラーディスプレイを有すること。
 - 8) 光学式マウスを有すること。
 - 9) USB インターフェースは、USB2.0 準拠を 2 個以上、USB3.0 準拠を 2 個以上有すること。
 - 10) スーパーマルチドライブを内蔵すること。
 - 11) マイクロソフト Office Professional Plus 2016、ウィルス対策ソフト及び Adobe Acrobat 最新版のインストール、設定を行うこと。
 - 12) Symantec Ghost 相当のソフトウェアを以って、処理されたデータの復元等が可能であること。
 - 13) 平日 9：00～17：15 において、障害発生時はオンサイトにて速やかに対応すること。
 - 14) キーボードは、86 キーでレーザー刻印タイプであること。
- (8) 検索性端末（デスクトップ PC）
- 設置場所、台数は、福井キャンパス閲覧室に 4 台、小浜キャンパスに 1 台（合計 5 台）とする。
- 1) デスクトップタイプのパソコン端末で、省スペース型であること。
 - 2) CPU はインテル® Core™ i3-6100（3.7GHz/2 コア/4 スレッド/3MB）以上のスペックを有すること。
 - 3) PC4-2133 DDR4 SDRAM 4GB 以上のメモリを有すること。
 - 4) OS は Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上とすること。
 - 5) 320GB 以上のハードディスク装置を有すること。
 - 6) 1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T に対応したネットワークインターフェース（RJ-45）を有すること。
 - 7) 解像度 1280×1024 ドット以上、最大 1677 万色を同時表示できる 19 インチ以上のカラー液晶ディスプレイを有すること。
 - 8) 抗菌キーボード及び光学式マウスを有すること。
 - 9) USB インターフェースは、USB2.0 準拠を 2 個以上、USB3.0 準拠を 6 個以上有すること。
 - 10) スーパーマルチドライブを有すること。
 - 11) マイクロソフト Office Professional Plus 2016、ウィルス対策ソフト及び Adobe Acrobat 最新版のインストール、設定を行うこと。
 - 12) Symantec Ghost 相当のソフトウェアを以って、処理されたデータの復元等が可能であること。
 - 13) 待機時の消費電力をゼロにするメインスイッチを装備していること。

- 14) 電源連動型サービスコンセント（本体内蔵）であること。
- 15) 平日 9:00~17:15 において、障害発生時はオンサイトにて速やかに対応すること
- 16) 再起動後に環境を復元する機能を設定すること（瞬快相当以上のソフトウェア）。

(9) 業務用カラーレーザープリンタ

設置場所、台数は、福井キャンパス 1 階 図書整理室に 1 台とする。

- 1) 印刷方式は半導体レーザー＋乾式 2 成分電子写真方式であること。
- 2) 印刷用紙はハガキサイズから A3 判に対応すること。
- 3) 連続印刷速度は、A4 判横送りでフルカラー・モノクロともに 40 枚／分以上であること。
- 4) ファーストプリント（標準トレイ 1 にて A4 横送り印刷時）がフルカラー時 5.3 秒以下、モノクロ時 3.0 秒以下であること。
- 5) 両面印刷に対応すること。
- 6) 解像度は 1200dpi×1200dpi 相当以上であること。
- 7) Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上の OS に対応したドライバソフトを用意すること。
- 8) 550 枚以上給紙可能なトレイを 2 段、500 枚以上給紙可能なトレイを 1 段有し、100 枚の手差し給紙も可能であること。
- 9) 100V の商用電源で稼動すること。
- 10) 10/100BASE-TX 対応の Ethernet に対応したインターフェースを備えていること。
- 11) USB ポートを有すること。
- 12) 512MB 以上のメモリを有すること。
- 13) トナーカートリッジを 1 個以上添付すること。

(10) 業務用小型モノクロレーザープリンタ

設置場所、台数は、福井キャンパス 1 階 図書整理室に 1 台、同閲覧室に 1 台、小浜キャンパス 2 階 分室に 1 台（合計 3 台）とする。

- 1) 印刷方式は、LED アレイ＋乾式一成分電子写真方式であること。
- 2) 印刷用紙はハガキサイズから A3 判に対応すること。
- 3) 連続印刷速度は、A4 判横送りで片面 38 枚／分以上であること。
- 4) ファーストプリント（標準トレイにて A4 横送り印刷時）が 6.5 秒以下であること。
- 5) 両面印刷に対応すること。
- 6) 解像度は 1200dpi×1200dpi 相当以上であること。
- 7) Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上の OS に対応したドライバソフトを用意すること。
- 8) 500 枚以上給紙可能なトレイを 1 段有し、100 枚の手差し給紙も可能であること。
- 9) 100V の商用電源で稼動すること。
- 10) 10/100BASE-TX 対応の Ethernet に対応したインターフェースを備えていること。
- 11) USB ポートを有すること。
- 12) 512MB 以上のメモリを有すること。
- 13) トナーカートリッジを 1 個以上添付すること。

(11) 入退出管理システム（電気錠）

設置場所、台数は、福井キャンパス閲覧室に 1 式とする。ID カードの磁気ストライプ内の番号読み取りにより別途指定の閲覧室 2 階出入口および図書整理室横入口の開錠を行う装置を設置し、以下の条件を満足すること。

- 1) 時刻・曜日で全開・全閉・番号読み取り開錠の設定ができること。
- 2) 認証番号を ID カードの磁気ストライプから読み取れること。
- 3) 個別の認証番号によって、開錠する日付・曜日・時間帯を設定できること。
- 4) 開錠の番号・時間がコンピュータ室に設置したパソコン等に記録できること。番号は 8 桁で、3、000 人分の設定ができること。
- 5) 図書閲覧室横入口部分については、屋外仕様とすること。
- 6) 閲覧室 2 階部分は廊下、室内側の 2 箇所に設置し、双方からの出入を管理可能なこと。

(12) 防犯ビデオカメラ設備

設置場所、台数は、福井キャンパス閲覧室に 1 式とする。

- 1) 図書館入口（1、2 階）付近にネットワークを通じた計 2 台のカメラと集音マイクを使用し、HDD に録画が可能であること。
- 2) 記憶装置として HDD（250GB 以上）を標準装備し、毎秒最大 120 コマの録画が可能で

あること。

- 3) HDD ビデオデッキは施錠のできるラックに収納すること
- 4) HDD ビデオデッキの録画ファイルを DVD に保存が可能なこと。
- 5) カメラはネットワークを通じてパン・チルトの制御が可能なこと。

(13) OCR スキャナ

OCR スキャナを 6 式設置する

- 1) OCR-B フォント、バーコードとも読み取る機能を有すること。
- 2) 現行の図書 ID を変更することなく読み取る機能を有すること。

(14) 蔵書点検用 OCR スキャナ

蔵書点検用 OCR 機器を 5 式設置する

- 1) 読み取り光源は高輝度赤色 LED を有すること。
- 2) 読み取り範囲は 81×51mm 以上、読み取り距離は 110mm 以上に対応すること。
- 3) 通信インターフェースは、BluetoothR V2.1 +EDR の無線伝送方式を有すること。

(15) ネットワーク機器

ギガビットイーサ対応スイッチングハブ 16 ポートを 1 式、ギガビットイーサ対応スイッチングハブ 8 ポートを 4 式設置する。福井、小浜キャンパスの電源・LAN 工事等もあわせて設置場所／設定内容は大学と協議の上設置する（福井キャンパスサーバ室/電源・LAN 工事、福井キャンパス事務室/LAN 工事、小浜キャンパス/LAN 工事）。

- 1) 10 / 100 / 1000BASE-T 8or16 ポートを搭載すること。
- 2) 通信モード切り替えスイッチにより、通信速度の自動認識／固定設定が可能であること。
- 3) Auto MDI スwitchにより MDI/MDI-X の切り替えが可能であること。
- 4) SELECT ボタンで ECO モードを選択すると、POWER ランプ以外のランプ を消灯し、消費電力を抑止することが可能であること
- 5) Auto MDI スwitchにより MDI/MDI-X の切り替えが可能であること

5. 3 ソフトウェア

(1) 業務データベースサーバ及び検索データベースサーバ

- 1) Red Hat Enterprise Linux 6.5 相当以上の Linux であること。
- 2) プログラムを作成、実行するうえで必要なソフトウェアを備えていること。

(2) データベース

- 1) リレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) であること。
- 2) 本システムのパッケージソフトと同一メーカーのデータベースであること。
- 3) 日本語処理に優れていて、データは UCS コードで管理されること。
- 4) データベース操作言語によりデータを操作する機能を有すること。
- 5) 検索データベースサーバ上に検索用データベース、業務データベースサーバ上に業務用データベースを配置し、OPAC の負荷が業務に影響を与えないこと。
- 6) DBMS は同時アクセスユーザー数に制限のないライセンスを提供すること。
- 7) 日本語文字列検索機能（全文書検索機能）を有すること。
- 8) 本学の所蔵冊数に十分対応できるデータベースの構築が可能なこと。

(3) ユーティリティ

- 1) データを EXCEL 等の表計算ソフトウェアに出力し、加工・印刷が可能であること。
- 2) 帳票出力の際には、pdf 形式にて出力すること。

(4) 日本語処理システム

- 1) 日本語の利用が可能であり、プリンター出力もできること。
- 2) 日本語のほか中国語や韓国語などの多言語文字の利用も可能であること。

(5) 業務用端末ソフトウェア

- 1) OS は Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上とすること。
- 2) Microsoft Internet Exploror 11 以上のブラウザを有すること。
- 3) Flash Player 10.1 以上を有すること。

(6) 検索用端末ソフトウェア

- 1) OS は Windows 8.1 Pro 64bit 相当以上とすること。
- 2) Microsoft Internet Exploror 11 以上のブラウザを有すること。

6. 移行

6.1 移行の条件

- 1) 現行システムのデータの継承ができること。その際、各種データ及び各種コード表等は全て継承できること。
- 2) 現システムからのデータ抽出は、受注者の責任において実施すること。
- 3) 現システムのバックアップを取ること。
- 4) 全ての帳票は、本学で現在使用している形式をそのままに、新システムに使用できること。
- 5) データ移行は、本学と協議の上、受注者の責任において短期間で完了すること。
- 6) 移行においては、本学の日常業務に支障を与えないこと。

6.2 本契約終了時のデータ抽出

- 1) 本契約終了後の次システムへのデータ移行のための本契約システムからのデータ抽出についても、本学と協議の上、受注者の責任において実施すること。